

平成28年度 学校法人 三幸学園 千葉医療秘書専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 稲毛 耕

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 鈴木 一博

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

・人間性を高める教育の実践 高い現場力の醸成

「相手のこうして欲しいを理解し、考え続ける人材」を育成する事を目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するに留まらず、人間性を高める教育を併せて展開することにより、真に社会に役立つ人材を輩出できると考え、教育活動を展開してきた。学習の成果として、就職決定率、資格取得率において高い結果を残すことが出来たが、基本となる社会人基礎力の習得においても行事・課外活動等を通じて養う事ができた。また、昨年度の課題であった退学率も教員陣が一丸となって将来像をイメージさせながら学生生活を過ごさせることにより、減少をすることができた。

次年度も退学率の更なる減少、卒業生へのサポート支援体制の構築、課外活動・ボランティア活動の活性化等を課題として取り組む必要がある。

② 学校関係者評価委員会コメント

・教育理念・目標が明確になっていてわかりやすい

・退学率の低さは学校としての評価において重要視される項目なので、退学者の低減への取り組みは今後も必要である

・業務の効率化で確保できる時間を先生方にはぜひ学生指導にあてていただきたい

・アクティブラーニング、アンガーマネジメントなどの教員の指導力向上のための研修を実施している点が評価できる

・就職率が高く、業界内就職をできている点が評価できる

・スキルとしてコミュニケーション術や親和性、人間性を高めるためには授業以外の学校行事や課外活動の経験が重要と思われるので、ボランティアなど積極的に参加できる状況を作してほしい

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

- ・保護者、生徒への学校の理念・目的・育成人材像・将来構想の浸透
- ・業界の動向・ニーズを把握し、それに基づき教育目標や教育育成像を設定していく精度を高める
- ・医療事務分野の産学連携の可能性を見出す

② 今後の改善方策

- ・ミッションビジョンポスターを校内掲示し視覚から浸透させる
- ・病院訪問を更に積極的に行い現場の話を聞き、業界のニーズに合わせた目標を設定する
- ・収集した情報を多面的に評価し、教育課程の編成に活用していく仕組みを構築する
- ・産学連携の強化

③ 特記事項

- ・教育理念、目標、人材育成像を体系化し全教職員への浸透を図っている
- ・三幸学園の原点「あきらめない教育」を小冊子化し配布、全教職員に浸透している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・教育理念・目標が明確になっていてわかりやすい
- ・生徒に対して校内ポスターなど理念・目的などの浸透のための施策を行っているのは評価できる
- ・理念、目標、育成人材像を全教職員に浸透させる取り組みを今後も続けてほしい
- ・業界ニーズを常に把握するためにも業界との連携を密にする必要がある
- ・病棟クラークコースの授業内で行われていた、車椅子実習などが現在の仕事の中で役に立っており、現場で働く際には必要な力なので、どのコースにも共通で授業があった方がよい
- ・業界のニーズとしては、現場ではゆっくり指導をする時間がとれないことが多いため、専門学校で基礎的知識は学んできてもらえると助かる
- ・基礎的知識がある分、専門学生を採用するメリットにも繋がる

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・情報システム化により業務の効率化をさらに推し進める
- ・業務の効率化をさらに推し進め、教職員のワークライフバランスの浸透を図る

② 今後の改善方策

- ・グループウェアの効果的な活用方法の理解・促進

③ 特記事項

- ・年6回、定期的に全教職員・講師に向けて会議を実施し運営方針の浸透と情報共有を積極的に行っている
- ・残業時間の軽減を学園全体で取り組んでいる

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・問題なく学校運営がなされていると感じる
- ・業務の効率化で確保できる時間を先生方にはぜひ学生指導にあてていただきたい
- ・運営方針の浸透、情報共有を定期的に行っている点は評価できる
- ・引き続き適正な学校運営を行ってほしい
- ・医療業界でもライフワークバランスの推進活動が広まっており、患者数増加の取り組みと、残業時間の軽減の取り組みを両方行うことは非常に難しい問題である

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・キャリア教育を推し進めるために社会ニーズに沿ったカリキュラム・教育方法を開発する
- ・授業評価、実習先評価の精度向上と教育への反映
- ・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラム作成・見直しが行われていない

② 今後の改善方策

- ・提携企業との連携を強化し授業科目の開設と授業方法の改善・工夫を行う
- ・授業評価における評価項目の見直しを実施し教員の質を向上させる
- ・産学連携、現場に足を運び直接話を伺う

③ 特記事項

- ・平成 27 年度より学生による授業評価の見直しが完了し、実習先(企業)と実習生(学生)による相互評価を実施している
- ・教員指導力向上のための研修(アクティブラーニング研修、アンガーマネジメント研修)を実施している
- ・2016 年4月教育開発部設置やトライアクションの実施により主体的な生徒の育成、また教員の統一した指導・教員指導力向上が期待できる

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・4週間の実習期間は妥当と感じるので今後も続けてほしい
- ・実習を通して、就職活動への考えを広める機会となったので、貴重な経験だった
- ・アクティブラーニング、アンガーマネジメントなどの教員の指導力向上のための研修を実施している点が評価できる
- ・医療法や診療報酬の改正などにより、現場で求められる法規的知識も変わっていく。学校においては即対応できるように業界との密な連携が不可欠である
- ・授業評価の実施・評価体制が整っている点が評価できる

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学者の低減
- ・卒業生の社会的活躍の情報収集と教育活動への反映
- ・卒業生のセカンドキャリアサポートが不十分

② 今後の改善方策

- ・資格取得への動機づけの強化及び環境面への整備
- ・教科担当教員同士の連携
- ・退学者プロジェクトに基づき、クラス報告会の実施と退学防止事例の共有を実施
- ・同窓会サイトSANKO LINK を活用し卒業生の情報を把握

③ 特記事項

- ・就職実績のある病院へ訪問し、卒業生の状況をヒアリングして在校生の育成に生かす

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・就職決定率が高く、業界内就職をできている点が評価できる
- ・卒業生講話や業界講話による就職指導が評価できる
- ・退学者の少ない上級学校を高校としては勧める傾向にあるので、更なる退学者減少への施策を講じてほしい
- ・SANKO LINKの周知度が低い
- ・検定WEEKがあったからこそ資格取得ができたと感じている

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・保護者との連携は問題行動のある生徒に偏る傾向がある
- ・中途退学者への支援体制が不十分である

② 今後の改善方策

- ・定期的な保護者との連携を強化(学校行事見学、保護者通信の送付)
- ・更なる卒業生との連携強化を図るため同窓会サイトSANKO LINK を活用する
- ・中途退学者への退学後にも支援できる体制としてできることを検討していく

③ 特記事項

- ・平成28年4月から担任が4月中に保護者に挨拶の電話掛けを行っている
- ・カウンセリングルームを設置し整備はできているがまだまだ活用ができていないためカウンセリングルームを周知させる
- ・飛鳥未来高校にて「職業理解のためのガイダンス」を実施している
- ・千葉県専修学校各種学校協会主催「千葉県仕事の学び場」事業(専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン)に参加

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高等学校とのキャリア教育への取り組みは評価できる
- ・就職や学校生活の支援体制を十分に整えられていると思われる
- ・保護者との連携については、行事見学などを活性化させてはどうか
- ・卒業生に対してキャリアアップにつながる講座を開いてほしい
- ・三幸学園の卒業生は忍耐強い子が多く、検定WEEKなどで追い立てて勉強をするような経験が響いているのかもしれない

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・更に質の高い教育を目指し、教育環境・体制を整備する
- ・施設、設備は整ってはいるが、活用があまりできていない

② 今後の改善方策

- ・防災への啓蒙活動を強化する
- ・教科の先生方と相談し、メディカルルームを使用する実践的な授業を更に取り入れる

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・メディカルルームなど十分な施設設備が備えられている
- ・実習先については在校生全員が実施できるように開拓している点が評価できる
- ・防災に対する備えもできているように見受けられる
- ・実習において必要な力は積極性や、しっかりと聞いて、それを正確に相手に伝えられ、相談をすることが実習の醍醐味ではないか

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・学生募集活動は適正に行っているが、職業人物像・職業意識まで正確に伝えられていない

② 今後の改善方策

- ・教育成果を高校の先生へ伝える
- ・広報担当部署との連携を強化していく
- ・広報活動をする際、業界説明や就職後の働き方、内容を更に詳しく伝えていく

③ 特記事項

- ・学納金は、教育研究費、人件費、施設管理費などを算出基盤としている
- ・学納金の決定に際しては、他校の学費水準も把握した上で決定している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・募集活動は適切に行われているように感じる
- ・定期的に高校等を訪問し在校生、卒業生の状況を報告している点は評価できる
- ・就職先の決定だけでなく、在校生の変化なども伝えることが必要ではないか
- ・学納金は妥当な設定だと思われる
- ・医療事務は幼いころからの夢になりづらい職種であるが、事務希望者に説明をすると必ず興味が惹かれる職種であるため、周知活動を行っていく必要がある

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度到新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

- ・更なる法令遵守の推進

② 今後の改善方策

- ・会議や掲示物等を通じて、すべての職員に法令順守に対する啓蒙を積極的に実施していく

③ 特記事項

- ・2014年度自己評価結果より公開を開始

③ 学校関係者評価委員会コメント

- ・事項評価の公開を開始した点は評価できる
- ・今後も個人情報を適切に保護していきたい
- ・問題意識が高く、更なる向上が期待できる
- ・病院でも個人情報保護法の改定により、より一層の管理が必要となってきたため、学生にも個人情報に対する問題意識を高めてもらいたい

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・ボランティア活動を活性化させる
- ・地域に施設利用について周知がなされていない

② 今後の改善方策

- ・ボランティア活動を積極的に進めていく
- ・提携企業との連携を強化する

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・ボランティア活動に参加する生徒を更に増やしてほしい
- ・ボランティア活動経験は関連分野以外であっても参加させ、体験させる機会を作してほしい
- ・地域に対して公開講座や教育訓練を実施していただきたい
- ・病院祭や、平日午前中の患者案内ボランティアなど、参加してもらえると有り難いものもある

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	2
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

- ・留学生に対して、積極的な募集活動を行えていない現状がある

② 今後の改善方策

- ・留学生向けのホームページ上コンテンツの強化
- ・留学生に対する説明会、ガイダンスの実施回数を増加
- ・留学生に対する就職先の確保、母国の業界状況の把握、母国の就職斡旋等を強化する

③ 特記事項

- ・2014年度から「留学生学費減免入学」制度を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・留学生募集を効果的にできる広報活動を考える必要がある
- ・看護助手や介護系の職種であれば、留学生であっても就職は可能

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・「相手のこうして欲しいを理解し、考え動ける人材」を育成することを目指す人材育成方針とし、単に知識や技術を研究するだけではなく人間性を高める教育を併せて展開することを教育目標とし1年間取り組んできた。現場で活躍するための基礎力を資格・検定取得をベースに各学科で重点目標として掲げ、ほぼ目標通りの取得率を残した。最終的な就職決定率についても、98.6%とほぼ全員の就職を内定することができた。

心豊かな人間性を育むために学校生活において挨拶・マナー指導、行事を通しての自主性や主体性を引き出し高める機会を取り入れている。

課題としては、人材育成像を生徒が理解し、生徒自身の具体的な目標として目指す将来像を早い時期に合致させて、高いモチベーションを維持し続ける仕組みや体制を更に整備すること、課外活動やボランティア活動が希望すればできる状況を常につくっておくことがあげられた。